

経済学研究科

修士課程

空理空論を語らない実学主義の理念のもとに、持続可能な社会を研究する経済学、組織の運営について研究する経営学を中心に高度の専門性から、次の論文審査基準を定める。

指導教員が指導する専攻科目の演習を2年間（8単位）と指導教員の指示する専攻科目を含む講義科目（特論）を24単位以上履修し、指導教員の指導の下で修士論文を作成する。その審査に合格した者に修士（経済学）の学位を授与する。なお、2年次の秋に実施される公開の修士論文中間報告会、および2月に行われる修士論文最終報告会で発表し、最終報告会後に行われる3名の審査員による口頭試問を受け、そこでB以上の評価を得ること。その際、成績評価は、

- ① 研究分野に対する知識
- ② 研究の方法
- ③ 論旨の明確さ
- ④ 文章の明瞭さ

などの点から評価する。修士論文の成績は、2年次の演習の単位に含まれる。論文が80%、口頭試問が20%の割合で総合評価とする。なお、本研究科博士後期課程への進学を希望する者は、修士論文の成績がAであること。

博士後期課程

空理空論を語らない実学主義の理念のもとに、持続可能な社会を研究する経済学、人々が職を得る組織の経営学、利害関係者に求められる会計学を中心に高度の専門性から、次の論文審査基準を定める。

指導教員が指導する専攻科目の演習（研究指導）を3年間（12単位）と指導教員が指示する講義科目（特殊研究）2科目（8単位）を履修し、在学期間中に博士論文（学位論文）を提出する。その審査に合格すると博士（経済学）の学位を授与する。なお、博士論文については、公開の中間報告会および最終報告会で報告すること。論文の審査については、

- ① 研究の目的・対象・方法等の明確さ
- ② 研究の独創性
- ③ 当該分野の研究に対する貢献と位置づけ
- ④ 文献参照範囲の適切さ
- ⑤ 論旨の明確さと一貫性
- ⑥ 文章の明瞭さ
- ⑦ 学術論文としての形式要件

などについて3名の審査員によって評価する。その際、必要に応じて当該領域における外部の専門家を審査員に加えることがある。さらに、博士後期課程担当教員の3分の2以上が出席する委員会における投票で、出席者の3分の2以上の賛成を得る必要がある。

修士課程

(イ) 学位論文審査基準

- ① 問題設定の明確さ・妥当性
- ② 研究分野に関する知識
- ③ 研究の方法
- ④ 論旨の明確さ
- ⑤ 文章の明瞭さ

などを基準として総合的に評価する。

(ロ) 審査方法

2年次の秋に実施される修士論文中間報告会、および2月に行われる修士論文最終報告会で発表し、最終報告会後に行われる主査1名および副査2名の口頭試問を受けなければならない。

(ハ) 審査結果の審議

口頭試問後に開かれる研究科委員会で審査委員会の報告を受けて、論文が80%、口頭試問が20%の割合で評価し、合否判定を行う。B以上の評価を得て、修士論文の審査に合格した者に修士（社会学）の学位が授与される。

博士後期課程

(イ) 審査対象

20単位以上修得し、論文2本以上と学会発表1回以上の業績をあげている者の博士論文を審査対象とする。

(ロ) 学位論文審査基準

- ① 論文の独創性
- ② 研究テーマ、問題設定の学問的・社会的意義の適切性
- ③ 先行研究との関連性
- ④ 研究方法の妥当性（理論および実証）
- ⑤ 論理・主張の統一性と一貫性
- ⑥ 形式的な要件（語句の使用、文章表現、図表、注および参考文献の作成）

などを基準として総合的に評価する。

(ハ) 審査方法

3年次の秋に実施される博士論文中間報告会、および2月に行われる博士論文を最終報告会で発表し、最終報告会後に公開で行われる主査1名と副査2名以上の審査委員による口頭試問を受けなければならない。

(ニ) 審査結果の審議

口頭試問後に開かれる審査委員会の合否判定が後期課程担当者会議、後期課程担当者会議後に開かれる研究科委員会における投票で、出席者の3分の2以上の賛成を得る必要がある。博士論文の審査に合格した者に博士（社会学）の学位が授与される。

物流情報学研究科

修士課程

指導教員の指導の下で修士論文を作成し、論文審査を受ける。論文審査は主査1名、副査2名によって行われ、審査に合格し、物流情報学研究科委員会の承認を得て修士（物流情報学）の学位が授与される。

論文審査については、2年次の夏に実施される公開の修士論文中間報告会には修士論文中間概要書と論文本体を提出する。翌2月に行われる修士論文最終報告会では修士論文結果概要書と論文本体を提出し、発表し、最終報告会後に行われる3名の審査員による口頭試問を受ける。

口頭試問において審査委員からの質問・疑問があった場合には、まず口頭で説明し、その後「論文修正指示書」により論文の修正が指示されることがある。

論文の審査にあたっては、以下に掲げる各項目を主たる審査項目とする。

- ① 研究課題の設定の妥当性
- ② 問題意識の明確性
- ③ 研究方法の一貫性
- ④ 先行研究処理の適切性
- ⑤ 論旨展開・文章表現の適切性
- ⑥ 理論的・実証的な分析の厳格性
- ⑦ 注表記、引用、参考文献の妥当性

博士後期課程

在学期間中に博士論文（学位論文）を提出し、その審査に合格すると博士（物流情報学）の学位が授与される。公開の中間報告会および最終報告会で報告することが条件となる。

論文の審査にあたっては、以下に掲げる各項目を主たる審査項目とする。

- ① 研究課題の設定の妥当性
- ② 問題意識の明確性
- ③ 研究方法の一貫性
- ④ 先行研究処理の適切性
- ⑤ 論旨展開・文章表現の適切性
- ⑥ 理論的・実証的な分析の厳格性
- ⑦ 注表記、引用、参考文献の妥当性（以上①～⑦は修士論文審査基準と共通）
- ⑧ 研究の独創性

法学研究科

修士課程

(イ) 審査対象

2年以上在籍し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で提出された修士論文。

(ロ) 指導および審査方法

1年次の秋に研究計画書を提出させて審査を行っています。合格に達しない場合は再提出して再び審査する。合格した者には、2年次より副指導教員を2名つけ、正指導教員と連携を取って論文作成の指導に当たる。2年次の前期に修士論文中間審査を行い、論文執筆ないしその準備が研究計画に基づいて順調に進んでいるかを審査する。これに合格しないと、論文の提出を受け付けない。完成した論文は、正副指導教員3名による予備審査に付され、これに合格した場合には、最終的に口頭試問による本審査を受けることができる。

(ハ) 学位論文審査基準

- ① 研究課題の設定の妥当性
- ② 問題意識の明確性
- ③ 研究方法の一貫性
- ④ 先行研究処理の適切性
- ⑤ 論旨展開・文章表現の適切性
- ⑥ 理論的・実証的な分析の厳格性
- ⑦ 注表記、引用、参考文献の妥当性

スポーツ健康科学研究科

修士課程

本研究科は、地域での様々なスポーツ（生涯スポーツや競技スポーツ等）の振興・推進にかかわる実践や諸問題の解決に役立つ専門的知識・技能を身につけた人材の育成が目的である。その上で、科学的に課題解決できる能力が身につくよう学位論文の作成を課し、以下の基準により学位論文を審査する。

(イ) 審査対象

- ・学位論文
- ・論文概要（学位論文の抄録）
- ・口頭試問

(ロ) 学位論文審査基準

- ① 研究テーマは妥当か（体育・スポーツ・健康領域との関連性、社会的・学術的重要度等）
- ② 論文に記述されている内容は論理的か（論の展開、目的と結論の整合性等）
- ③ 科学的に適切な方法・手順でなされたか（研究倫理、方法上の妥当性等）
- ④ 得られた結果や結論は妥当なものか（適切な分析と統合、解釈の飛躍等）
- ⑤ 論文としての体裁は整っているか（誤植、目次の配置、執筆要領の遵守等）
- ⑥ 論文概要の内容・体裁は妥当か（本論との整合性、要約の適切性等）
- ⑦ 論文に関する審査員からの質問に対する受け答えは妥当か（真摯さ、科学的態度等）

(ハ) 審査の方法

論文審査の可否は、主査1名、副査2名からなる審査委員会が上記に示した審査基準に基づいて審査し、その結果から総合的に判断する。なお、最終的な審査結果は研究科委員会において審議し決定する。